

【倫理】津山工業高等専門学校 前期期末試験範囲

「神話（＝ミュートス）」に基づく世界観

神々の超自然的な力が人間と世界の運命を支配するという神話的世界観

（ホメロス）『イリアス』『オデュッセイア』（ヘシオドス）『神統記』『仕事と日々』

↓↓↓

理性や論理を意味する（ロゴス）に基づいて、筋道を立てて合理的に考えようとする哲学の誕生

（テオリア）（観想）・・・物事から距離をとり静観的に対することによって真理を捉えようとする態度である。

・自然哲学

初期の哲学者たちは主に自然（ピュシス）の根源（＝アルケー）について探求したので自然哲学者と呼ばれる。

〔自然哲学者とアルケー〕

哲学者	アルケー	哲学者	アルケー
（タレス）	水	（アナクシマンドロス）	ト・アペイロン
（ヘラクレイトス）	火	ピタゴラス	数
パルメニデス	有	デモクリトス	原子

（ソフィスト）（知恵のある者）・・・政治的知識や弁論術を青年に教えることを職業とする人びと。

→「正義」とか「真理」といったものがもともと備わっているもの（ピュシス）（＝自然）なのか、人間相互の慣習や取り決め、すなわちノモス（＝人為）なのかという論争を引き起こした。

（プロタゴラス）・・・「人間は万物の尺度である」

（ゴルギアス）・・・民主制における正義は、本来強者に属すべき利益を弱者が共同で分配するもの

（ソクラテス）と（プラトン）は、知識を売り物にするソフィストたちを批判し、「善き生」を求めることの大切さを説いた。

ソクラテス以前と以後を分ける決定的な要素は「徳（＝アレテー）への問い」である。。

・（デルフォイ）の神託

ソクラテスは自分が少なくとも自らの無知を自覚しており、その点において他のものよりも知者なのである（無知の知）。

（問答法）・・・対話を通して相手の無知を自覚させ、真理の認識を助けるソクラテスの方法。（助産術）ともいう。

「ただ生きる」のではなく、「（善く生きる）」ことを主張したソクラテスは、脱獄を進める弟子たちに対して、脱獄は不正であり、「悪法も法なり」といった。

→「善く生きる」ためには、「（魂への配慮）」をし、自らの魂が優れたもの、善いものになるように努めなければならない。

プラトンは感覚によって捉えられる個々の不完全な事物をこえて理性によって捉えられる事物の完全な姿を（イデア）と呼んだ。

プラトンはアイデアの中でも最高のアイデアとは（善のアイデア）であると考えた。

（想起説）・・・魂は本来はアイデア界に属していた。

・理想の国家

魂と同様に国家にも、三つの階級（生産活動に充実する生産者階級、軍人である防衛者階級、そして統治者である支配者階級がある。最高のアイデアである善のアイデアを学んだ哲人が支配者階級として国家を統治する（哲人政治）が、理想の国家であるとプラトンは考えた。

（アリストテレス）・・・マケドニアで生まれ、プラトンの学園アカデメイアで学んだ。やがて師の哲学を批判し、個々の現実の事物を客観的に考察し、経験と観察を重ねる現実主義の哲学を説いた。アレクサンドロス大王の家庭教師をしていたことでも有名。

プラトンが現実を超えた永遠不変のアイデアこそが実在であるとしたのに対して、アリストテレスは、現実世界にある個々の事物（＝個物）こそが実在であるとしてアイデア論を批判した。個物は、それが何であるかを定める本質、すなわち（形相）（＝エイドス）とそれが何からできているかを表す素材、すなわち（資料）（＝ヒュレー）から成り立っている。

資料の中にある形相がまだ実現されていない状態を（可能態）（デュナミス）、形相が実現された状態を（現実態）（エネルゲイア）とした。

幸福 ＝ 人生の最終目標 ＝ （最高善）

人間固有に機能＝「（理性）」

→理性を働かせた活動こそが人間にとって最も幸福な生活、すなわち知恵や心真理を求める（観想的生活）こそが最も幸福な生活。

（知性的徳）・・・理性的部分の働きから生じる。真理を認識する理論的な知である知恵（＝ソフィア）と実践的な知である思慮（＝フロネーシス）に区別され、修得には教育や学習が必要とされる。

（倫理的徳）・・・感情や欲望に関わる部分は、それ自身だけでは善いものにならず、理性によって導かれるときに善いものになる。このとき生じるのが倫理的徳である。

（中庸）・・・アリストテレスは過度と不足の両極端を避けた中間である中庸こそが好ましいと考えた。

・国家論

人間は「ポリスの動物」であるので、人間の幸福な生活はポリスの生活においてのみ実現される。

アリストテレスは、ポリスが善くあるためには（正義）と（友愛）（＝フィリア）が必要だと主張した。

正義

全体的正義：ポリスの生活全般に関わる正義であり、ポリスの法に従うことで達成される。

部分的正義：ポリスの生活の一部に関わる正義で、配分的正義と調整的正義に分かれる。

（配分的正義）：富や名誉の配分に関わる正義で、地位や能力に応じて配分される。

（調整的正義）：紛争において利害や刑罰を調整する正義で、当事者の地位や能力に関わり（矯正）なく公平に行われる。

人々は政治に直接参加することができなくなったことで、公共的な政治的生活への関心を失い、個人の生活を重視する個人主義的な傾向が強くなった。そして、世界全体（コスモス）をポリス（＝**コスモポリス**）とした世界市民（コスモポリテューヌ）という考えが生み出された。

（**ヘレニズム**）は「ギリシャ風」という意味である。

（**エピクロス**）はサモス島出身の思想家で、快楽主義を説き、（エピクロス派）という学派を開いた。

（**快楽主義**）・・・快楽をもたらすものが善であり、不快をもたらすものが悪であるとし、快楽に価値を置く考え方。エピクロスはこの心が平静・平安である状態を（**アタラクシア**）と呼んだ。

「（**隠れて生きよ**）」・・・エピクロス派の信条を示す言葉。

ストア派

キプロス島出身の（**ゼノン**）によって開かれた学派。アテネの柱列（ストア）のある学校で学を講じたため（**ストア派**）と呼ばれ、後にローマへと受け継がれた。

自然との調和・・・ゼノンは「（**自然に従って生きよ**）」と説いた。

（**禁欲主義**）・・・人間の情念（＝**パトス**）や快楽は、人間の理性と自然の理性とが一致することを妨げてしまう。そこでどのような感情や情欲に対しても決して心を動揺させることのない不動心（＝**アパテイア**）を理想の境地とした。

（**コスモポリタニズム**）（世界市民主義）・・・すべての人間は理性を持つものとして、コスモポリス（世界国家）の一員、すなわちコスモポリテューヌ（世界市民）であり、平等であるというコスモポリタニズム（世界市民主義）を説いた。人間の持つ理性の普遍性という考え方は、人間の理性（自然）に基づく法として（**自然法思想**）につながっていく。

（**キケロ**）・・・ローマ時代の政治家・雄弁家としても有名。『義務について』

（**マルクス＝アウレリウス＝アントニヌス**）・・・五賢帝の最後の一人で、哲人皇帝。『自省録』

ユダヤ教の成立

アラビア半島で遊牧生活を送っていた（**イスラエル**）（ヘブライ）人は、紀元1500年ごろカナン（パレスチナ）に移住した。紀元前13世紀頃、イスラエル人の指導者（**モーセ**）は、エジプトで奴隷状態に置かれていたイスラエル人の人々を率いてエジプトを脱出し（＝**出エジプト**）、故郷であるカナン（パレスチナ）へと向かった。モーセは、その途中でシナイ山において神（**ヤハウェ**）から、十か条の掟（＝**十戒**）を授かった。

（**バビロン捕囚**）・・・奴隷としてイスラエル人がバビロニアに連れ去られたこと。

・ユダヤ教の特色

（1）『**聖書（旧約聖書）**』・・・ヘブライ語で書かれたユダヤ教の聖典。

（2）（**選民思想**）・・・イスラエルの民だけが「（**神に選ばれた**）」であり、神への絶対の信頼と服従を誓ったイスラエルの民だけが救済されるという思想。

（3）（**唯一絶対の人格神**）・・・ヤハウェは、唯一絶対の人格神である。人格神とは、愛と怒り、裁きと赦しなどの意思や感情を持ち、人間に関わろうとする神である。またヤハウェは、正義を要求する（**裁きの神**）である。

- (4) (律法) と (契約) の遵守・・・神はイスラエル人に対して、契約に基づく服従を要求した。
- (5) (預言者)・・・国家の滅亡というイスラエル人たちの苦難の中で、神の言葉を伝える預言者達が現れた。そこで神はこの世に救世主(=メシア)を遣わし、イスラエル人を救うと預言した。

・イエスの登場

(イエス) は父ヨゼフ、母(マリア)の子としてパレスチナに生まれた。イエスは「神の国」の到来が近いことを告げ、自らが救世主(=キリスト(メシア))であるという自覚を持った。イエスの説いた言葉は(福音)(神からの喜ばしい知らせ)と呼ばれている。

- (1) 『(新約聖書)』・・・『旧約聖書』とともにキリスト教の経典である文章。
- (2) (律法主義)への批判・・・イエスはただ外面的に律法に従うよりも、律法の中に込められた神の意志を実現し、神に従おうとする内面的な信仰が大切であると説いた(=律法の内面化)
- (3) 罪人としての自覚・・・人間は神の命令に背き、自分の欲望のままにふるまおうとする(自己中心的主義)(エゴイズム)を持っている。キリスト教では人間が生まれつき持っている悪へ向かおうとする傾向を(原罪思想)を呼ぶ。
- (4) 神の愛(=アガペー)・・・イエスは神を「(愛の神)」として捉えた。アガペーは自分に背いた者でさえ愛する「(無償)の愛」、「(無差別平等)の愛」である。
- (5) 人間の愛(=エロース)・・・(自己愛)(エゴイズム)
- (6) (神への愛)：すべての人に注がれる神の愛を信じ、心から神を愛すること。
(隣人愛)：神が無差別・平等に人間を愛するように他人を愛すること。
「人からしてほしいと思うことは、何でも人にしなさい」(=黄金律)
- (7) (神の国)・・・イエスは神の国の到来を告げた。

キリスト教の展開

(原始キリスト教)の誕生

イエスが(復活)し昇天したという信仰が生まれ、(ペテロ)や(パウロ)などの使徒を中心に(イエス=キリスト)を信仰する集団が作られた。

パウロの回心

パウロはもともとユダヤ教の律法学者であったが、イエスによって新たな自分に生まれ変わるほかに生きる道はないと確信してキリスト教に(回心)した。

(イエスの死)・・・イエスの死は、人間の罪を自ら背負い十字架にかけられることで罪を償い人間を罪から解放しようとした。

(信仰義認論)・・・パウロは「神の前で人が正しいとされるのは、律法の行いによるのではなく(信仰)による」と述べた。

カトリック教会の成立

キリスト教は313年(ミラノ勅令)によってローマ帝国で公認された。

(教父)・・・キリスト教の教えを論証し教義として確立させた指導者であり、彼らが説いた教義を(教父哲学)という。

教父たちはキリスト教の正当な教会として(カトリック)を成立させた。

そのなかでもペテロが創建した(ローマ教会)は「教会の中の教会」とされ、ローマ教会の最高指導者は(教皇)(法王)と呼ばれるようになった。

(アウグスティヌス)・・・古代キリスト教会の最大の教父。

(三位一体説)・・・神の本性は唯一であるが、神の中に父なる神と子なるイエスと聖霊という三つの位格が存在するという考え。

(恩寵予定説)・・・原罪を背負う人間の自由意志は肉体の情欲に誘惑されやすいが、このような無力な人間が救われるのは(神の恩寵)によってのみだという説。

(三元徳)・・・キリスト教の三つの基本的な徳(信仰・希望・愛)

(スコラ哲学)・・・13世紀にアラビア経由でラテンの世界に再移入された(アリストテレス)哲学の影響を受け、研究が活発になった。このような研究は学校(スコラ)で行われたため、スコラ哲学と呼ばれる。

(トマス・アキナス)・・・スコラ哲学の完成者。

信仰と理性の調和・・・トマスは、(自然の光)と呼ばれる理性によって探求される(哲学の真理)と(神の光)と呼ばれる超自然的な神の啓示によって示される(信仰の真理)とを区別した。

「(哲学は神学の婢)」・・・神の啓示によってこの世界を理解しようとするのが神学であるが、そのためにこそ哲学は奉仕すべきであるという考えを示している言葉。

イスラム教

イスラム教は7世紀の初めにアラビア半島で預言者(ムハンマド)(=マホメット)によって開かれた。
↳神(アッラー)から「起きて警告せよ」「誦め、語れ」という声をきいたため。

神がムハンマドを通じて啓示した言葉を記したものが聖典『(コーラン)(=クルアーン)』である。

しかし、伝統的な多神教を信じるメッカの人々から迫害を受け、622年にメッカからメディナに逃れた。これを(ヒジュラ)(=聖遷)と呼び、この年はイスラム暦の元年とされている。

メディナへ移ったムハンマドは、そこでイスラム教を信仰する共同体(=ウンマ)を結成した。
また、アッラーへの絶対的服従を誓う信徒を(ムスリム)(=絶対的帰依者)という。

[(カーバ神殿)のあるメッカ、第二の聖地とされるメディナ、ムハンマドが昇天したと伝えられる「岩のドーム」がある(エルサレム)がイスラム教の聖地とされている。]

①「アッラーの他に神なし」

宇宙の創造者であり「(最後の審判)」を司る全知全能・唯一絶対の神アッラーに対する絶対的信仰・アッラーを偶像によってあらわすことはできない(偶像崇拜の禁止)

②「ムハンマドは神の使徒なり」

最後で最大の預言者であるムハンマド

- ・五大預言者「ノア、アブラハム、ムハンマド、(モーセ)、(イエス)」
- ・同一の神を信仰するユダヤ教徒とキリスト教徒はムスリムと同じ「(啓典の民)」とされる

コーラン・・・(アラビア語)で与えられ、声に出して読む(読誦)が基本

(シャリーア)(=イスラム法)

『コーラン』や「(スンナ)」(ムハンマドが示した範例・慣行のことで、『(ハディース)』と呼ばれる預言者の言行録によって知ることができる)

(六信・五行)

ムスリムは、次の6つの信仰（六行）を持つ信徒であり、神への奉仕として次の5つの行い（五行）を実践しなければならない。

(来世)：終末と最後の審判のあとに来る来世。

(天命)：一切のことがアッラーによって定められていることを信じること。

(信仰告白)：「アッラーの他に神なし、ムハンマドは神の使徒である」と証言する。

(断食)：イスラム暦9月（＝ラマダーン）に行われ、夜明けから日没までの飲食が禁止される。

(喜捨)：貧者救済のため財産に応じて課される税金（救貧税）。

(巡礼)：原則として、生涯に一度は聖地メッカを巡礼しなければならない。

(ジハード)（＝聖戦）

ムハンマドがメディナに逃れた後のメッカの氏族との戦いのことをいう。

本来の意味は、「神のために奮闘努力する」である。

(カリフ)・・・預言者（ムハンマド）の後継者とされるもの。

(スンナ派)：『コーラン』とムハンマドのスンナを信仰の基礎とする一派。

(シーア派)：ムハンマドの娘婿である4代目のアリーとその末裔を正当なカリフと主張する一派。

イスラム社会では、神の与えた宗教的な戒律が

世俗の生活において重要な意味を持っている（＝聖俗一致）

- ・（一夫多妻制）：一人の男性が複数の女性を妻とする。
- ・（飲酒）の禁止、（豚）を食べることの禁止、（利子）の禁止。

(政教一致)・・・宗教指導者が政治や国家の最高指導者の役割を果たしている。

(政教分離)・・・政治や宗教を切り離して考えること。

2013年9月20日, 全て完了!!

塚本 翔.